

小学生から始める「自ら学ぶ力」の育成に向けて

# 共に育てる「学びの木」

自学自習で育む、未来を生き抜く力 — 学校と家庭のパートナーシップ提案

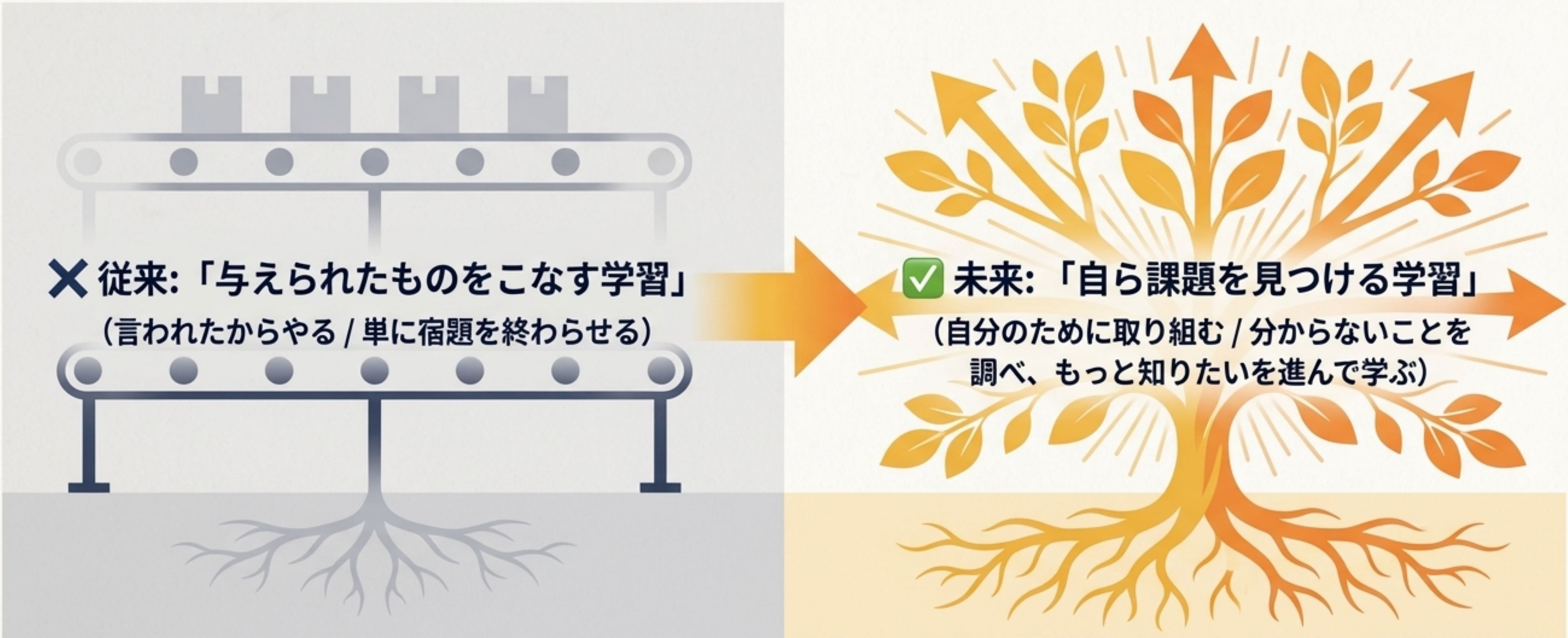
学校：基礎と構造  
(School: Foundation & Structure)



家庭：育成と好奇心  
(Home: Nurturing & Curiosity)

# 予測不能な時代における「学び」のパラダイムシフト

正解が一つに決まらない変化の激しい社会では、学びの定義そのものが変わります。



× 従来: 「与えられたものをこなす学習」  
(言われたからやる / 単に宿題を終わらせる)

✓ 未来: 「自ら課題を見つける学習」  
(自分のために取り組む / 分からないことを調べ、もっと知りたいを進んで学ぶ)

# 自学自習が育む3つの力（学びの木の構造）

「将来にわたって主体的に学び続ける力」



**葉と太陽：【意欲と振り返り】**  
成長の喜びと達成感。  
学びを客観的に見つめ直す「振り返り」  
が光合成のように次の成長を促す。

**幹：【自律的な学び】**  
自分の学習をコントロールする力。  
計画を立て、自分に合った学習方法  
を選び取る太い幹。

**根：【基礎学力の定着】**  
知識を「生きてはたらく力」へ。  
「わかる」「できる」の実感という  
土台。

# 学校でのアプローチ：主体性を引き出す3つの環境づくり



## 興味・関心の追求

「知りたい」を出発点に。  
教科書を超えて「なぜ？」  
「他にもないか？」と問いを  
広げる探究的な学び。



## 計画性の育成

見通しと試行錯誤。  
苦手な部分にも目を向け、  
計画どおりにいかない失敗経験も  
「次に生かす力」に変える。



## 生活習慣の改善

安定した学びの土台。  
十分な睡眠、適切なデジタル  
機器の使用時間見直し、  
そしてすべての基盤となる  
「読書」の推奨。

# 6年間のロードマップ：発達段階に応じた成長ステップ

## 低学年（1・2年生） - 「土台づくり」

目標: 基本的な学習・生活リズムの定着。

焦点: 「決めたことは最後までやる」けじめ。短時間でも集中する経験。

関わり方: 完璧を求めず、そばで見守り「学ぶ楽しさ」を育てる。

## 中学年（3・4年生） - 「広がり」

目標: 調べ学習の充実と、四則計算の確実な定着。

焦点: 4年生からの「ジョイントプログラム」を通じた復習サイクルの確立。ICTや図書の使い分け。

関わり方: 「調べて分かる」自信をサポートする。

## 高学年（5・6年生） - 「自立へ」

目標: 計画的な学習と、中学生生活を見据えた態度の確立。

焦点: 1週間の予定表を活用した見通し。学習と休養のバランス。

関わり方: 期限や自己管理を意識させ、自分の力で整えるよう促す。

# ● 家庭へのお願い①：見えないプロセスに光を当てる

見える結果:

「点数」「出来具合」「正解した数」  
(自学自習ではすぐに成果が見えるとは限りません)





水面下の努力:

「考えたこと」「工夫したこと」  
「挑戦したこと」「つまずき(失敗)」

結果主義からの脱却。失敗やつまずきも「次の学びにつながる大切な経験」  
として温かく見守ることが、学び続ける力を支えます。

# 家庭へのお願い②：自立を促す「声かけ」の変換表

日々の何気ない問いかけが、子どもの学びへの意識を変えます。

「Before」：結果志向の確認		→	「After」：過程と発見の対話	
	✗ 「今日は何を勉強したの？」 (単なる確認)			✓ 「授業で一番面白かったことは？」 「どんなことが分かったの？」 (発見の言語化・共有)
	✗ 「何点だった？」 「全部終わった？」 (結果の評価)			✓ 「ここまでよく頑張ったね」 「前よりも工夫できているね」 (努力と過程の承認)

自分の学びを誰かに言葉で伝える経験が、理解を深め、意欲へとつながります。

# 家庭へのお願い③：学びを育む「環境づくり」と「モデリング」

## 空間と時間のデザイン



学習する場所や時間をある程度決めることで、「今は学ぶ時間」という意識（スイッチ）を育てる。

## 親のモデリング（最大の学習環境）



保護者自身が読書をしたり、何かに向かって学び、楽しむ姿を見せること。。それ自体、が、子どもにとって「学び=ポジティブなもの」という最高のモデルとなります。

# 結び：学校と家庭で回す「学びのサイクル」



学校と家庭が同じ見通しをもち、両輪となることで、  
子どもたちは安心して挑戦し、自分の力で学び続ける姿へと成長していきます。